

別紙

ユニバーサル造船株式会社因島事業所温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

ユニバーサル造船株式会社 因島事業所

(2) 事業所の所在地

広島県尾道市因島土生町 2477-16

(3) 業種

3131 船舶製造・修理業

(4) 事業所位置図

別紙1のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成22(2010)年度を基準とする平成24(2012)年度から平成27(2015)年度までの4年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

ユニバーサル造船株式会社因島事業所は、ISO14001:2004での要求事項を満足し、当社の「ユニバーサル造船環境基本方針」にのっとり、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識するとともに、環境負荷低減への取組が事業継続及び発展に必須であるという信念を持ち、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

2. 方針

- (1) 電力・ガス（アセリン・酸素・LNG・都市ガス等）・油（ガソリン・軽油等）・水等の削減によるエネルギー使用合理化策の推進
- (2) 廃木材・廃プラスチック類・プラスト廃砂等の廃棄物排出量の削減、リサイクルの推進による省資源及び分別回収の推進
- (3) 大気・水質・土壌・騒音・環境汚染物質等の公害防止対策の推進（特に油流出による海面汚染の防止）

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成14年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素	燃料の使用	424.1	348.2	325.0
	電気事業者から供給された電気の使用	4,500.9	3,906.5	3,772.5
合 計		4,925.0	4,254.7	4,097.5

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：操業度 (単位：千時間)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成27年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	4,254.7	682.3	6.2	6.8	4,070.0	700.0	5.8
非エネルギー起源CO ₂	—						
メタン	—						
一酸化二窒素	—						
フロン類	—						
総排出量	4,254.7	682.3	6.2	6.8	4,070.0	700.0	5.8
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	1,934.7		2.8	6.3	1,860.3		2.7
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ を原単位で年約1.5%の削減率						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	燃料の使用を原単位で6%削減	1. 温室効果ガスの排出の少ない燃料への転換 2. 自動車の効率的運用 (アイドリングストップ)
2	電気使用量の削減	電気の使用を原単位で6%削減	1. 省エネ型電気機器への更新 (事務所空調機、排水ポンプ設備) 2. 冷暖房温度の適正管理 3. 昼休憩時の消灯の徹底 4. 効率的な休日出勤 5. O/A機器の効率的使用 6. エアー漏れの防止 7. 老朽化機器の更新

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

別紙2のとおり

(2) 実施状況の点検・評価

環境安全衛生室を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、因島地区環境保全委員会（EMS委員会）において定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付けて閲覧する